

これまでの経緯と今後の論点について

平成28年 9 月28日
内閣府政策統括官（経済財政分析担当）
内閣府経済社会総合研究所

経済財政諮問会議における議論の経緯

1. 2015年10月16日諮問会議

- 経済財政諮問会議における議論において、経済情勢を的確に把握するためにGDP推計のもととなる基礎統計の充実に努めるべきとの指摘。
- 具体的には、以下の点について指摘があった。
 - ・ 類似統計との乖離、サンプルの偏り（家計調査）
 - ・ 遡及時のデータの連続性（毎月勤労統計）
 - ・ ネット通販や住宅リフォーム・リノベーション動向等の把握

2. 2015年11月4日諮問会議

- 有識者議員より以下のような提案があった。
 - ・ 統計の司令塔である統計委員会は横断的な課題（回収サンプルの分布の歪み、サンプル替えの際の断層等）について早急に検討し、来春（2016年）までに方針を整理すべき。
 - ・ それを踏まえ、統計行政を所管する総務省及び統計作成府省は経済統計の改善を推進すべき。

3. 2016年3月24日諮問会議

- 諮問会議における個別統計への指摘事項に対する、対応方針や改善方法について西村清彦統計委員会委員長から報告。
- 統計の歪みを定期的に検知・検査する仕組みを整備し、統計制度改善のPDCAサイクルスキームを総務省内に確立し、統計委員会や各府省庁をサポートする旨、高市総務大臣から報告。
- これに対し、有識者議員より以下の通り指摘があった。
 - ・ より正確な景気判断を行う観点から、サンプリング方法やバイアス補正等の標準化に向けた動きを経済統計全体に拡大していくべき。
 - ・ 統一的な地域区分をベースに、統計間の比較・再集計ができるようにすること。
 - ・ 社会の変化をとらえるため、行政記録情報やビッグデータ等の民間情報の活用を一層推進すること。
 - ・ より正確な景気判断を行う観点から、統計委員会と連携しつつ、諮問会議で経済統計に関する改革方針を取りまとめ、来年度中に改革を着実に進めるべき。
- ・ 内閣府は、景気判断の精度向上の観点からの行政記録情報やビッグデータの活用に向け取組を進めるべき。

「経済財政運営と改革の基本方針2016」における関連事項

< 「経済財政運営と改革の基本方針2016（平成28年6月2日閣議決定）」（抄） >

経済財政運営に当たっては、不断の統計の改善が必要である。総務省は、統計委員会が取りまとめた取組方針に基づき、関係府省庁の協力を得て、統計の精度向上に取り組む。

景気判断をより正確に行う観点から、行政記録情報やビッグデータ等の活用を拡大する。さらに、GDP統計をはじめとした各種統計の改善に向け、経済財政諮問会議において、統計委員会と連携しつつ、以下の課題を含む政府の取組方針を年内に取りまとめる。

- ①経済社会構造の変化を横断的に正確に反映する仕組み
- ②類似統計間の統計手法、結果等についての比較分析と統計改善に向けたフィードバックの仕組み
- ③地域区分の見直しなど統計の比較可能性の強化
- ④行政記録情報やビッグデータなどの新たなデータ源についての効率的な利活用の推進

主な論点と具体的な検討事項

骨太方針における 論点	検討事項
① 経済社会構造の 変化の横断的反映	➤ 世帯構造が多様化する中での消費動向の把握 ・ 増加傾向にある共働き世帯や単身世帯を含め、様々な家計の消費動向を十分に把握するため、調査負担の軽減や補完する調査の活用を図るべきではないか。 ➤ 多様なサービスの生産・消費活動の把握 ・ サービス関連の統計を景気判断やGDP統計等に活用する際の課題は何か。 ・ インターネットやスマートフォンの活用等により新たなサービスが創出される中、既存の統計調査によってサービスの生産・消費の実態が十分に把握できていないのではないかと。また、そうした新たなサービス価格の動向も適切に把握できていないのではないかと。どのような取組が必要か。

主な論点と具体的な検討事項

骨太方針における 論点	検討事項
② 類似統計間の比較分析	➤ 統計作成手法の標準化の動きの拡大 ・ サンプルングやバイアス補正の手法等について統計間ではばらつきがあるため統計作成手法を標準化すべきではないか。また、どのように標準化を進めるべきか。 ➤ 類似統計間の動向の齟齬について検証 ・ 類似統計間(例: 需要側統計と供給側統計)で齟齬がある場合、どのような方法で検証すべきか。また、どのような方法で改善すべきか。 ・ 調査票や回収方法等調査方法の変更によって、データに断層の発生が疑われる場合の改善の仕組み。統計作成部局の自主点検の仕組みや、統計の利用者サイドからのフィードバックをどのようにすべきか。
③ 新たなデータ源の活用	➤ 景気動向把握におけるビッグデータ活用の可能性 ・ POSデータやポイントカードデータ、クレジットカード情報、携帯端末情報、物流・旅客データといったビッグデータを景気動向把握に活用するために必要な検討課題、留意点。 ➤ 景気動向把握における行政記録情報等の活用の可能性 ・ 税務データや電力需要、生活保護世帯数といった行政記録情報等による景気動向の把握の可能性。 ・ マイナンバー等(法人番号)を統計調査に活用することによる景気分析力向上の可能性。 ➤ ビッグデータや行政記録情報の効率的な活用 ・ ビッグデータや行政記録情報の活用状況の把握とその効率的な利活用に向けた検討。

主な論点と具体的な検討事項

骨太方針における 論点	検討事項
④その他の検討事項	➤ 統一的な地域区分をベースにした統計間の比較・再集計 ・ 地域区分の見直しに当たっての留意点。 ・ 利用者の利便性の向上のため、政府全体として、どのような取組を進めるべきか。 ➤ 住宅リフォーム動向の早期把握の取組の推進 ・ 今後重要性の高まる住宅リフォーム動向の早期把握のための取組の推進。
⑤GDP統計の改善	➤ 一次統計の改善 ・ GDP統計の改善のために、一次統計をどのように改善すべきか。 ➤ 加工推計方式の改善等 ・ 2008SNAへの移行を含む基準改定によるGDP統計の改善。 ・ 更なる加工推計方式の改善に向けた方策。 ・ 雇用者報酬だけではなく、行政記録情報や各種統計の活用による可処分所得の早期把握。

今後の進め方（案）

日 程	議 題 (案)
第 1 回（今回） （ 9 月 28 日）	「経済統計に関する現状と課題」 ▶ これまでの経緯と検討に向けた論点整理 ▶ 関係府省におけるこれまでの検討と今後の取組方針
第 2 回 (10月中)	「経済社会構造の変化の横断的反映」① ▶ 世帯構造が多様化する中での消費動向の把握 「類似統計間の比較分析」 ▶ 統計作成手法の標準化の動きの拡大 ▶ 類似統計間の動向の齟齬について検証 「新たなデータ源の活用」① ▶ 景気動向把握におけるビッグデータ活用の可能性 ▶ ビッグデータや行政記録情報の効率的な活用
第 3 回以降 (11～12月中に 2 回程度開催)	「経済社会構造の変化の横断的反映」② ▶ 多様なサービスの生産・消費活動の把握 「新たなデータ源の活用」② ▶ 景気動向把握における行政記録情報等の活用の可能性 「その他の検討事項」 ▶ 統一的な地域区分をベースにした統計間の比較・再集計 等 「GDP 統計の改善」 ▶ 一次統計の改善 ▶ 加工推計方式の改善等